

(別添)

# ICT活用工事（土工）実施計画書

(工事名：○○○○○○○○工事)

受注者：○○○○○○

当該工事において活用する技術について、「作業内容」欄の該当する工種のチェック欄に「■」と記入し、「採用技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。また、建設生産プロセスの各段階において、現場条件によりICTによる施工が適当でない箇所を除く施工範囲の全てで活用する場合は、左端のチェック欄に「■」と記入する。

(内容)

施工プロセスの段階		作業内容		採用する技術番号	技術番号・技術名
□ 全て活用する	<input type="checkbox"/>	① 3次元起工測量			1 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3 TS等光波方式を用いた起工測量 4 TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 5 RTK-GNSSを用いた起工測量 6 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 7 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 8 その他の3次元計測技術を用いた起工測量 8を選択した場合の技術名称： [ ]
	<input type="checkbox"/>	② 3次元設計データ作成			※3次元出来形管理に用いる3次元設計データの作成 ※3次元設計データの作成
	<input type="checkbox"/>	※当該工事に含まれる右記の作業全てで活用する場合に「■」と記入	<input type="checkbox"/>	掘削工	1 3次元MC建設機械 2 3次元MG建設機械
	<input type="checkbox"/>		盛土工		
	<input type="checkbox"/>		路体盛土工		
<input type="checkbox"/>	路床盛土工				
<input type="checkbox"/>	法面整形工				
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	側溝工（暗渠工）			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	暗渠工			
<input type="checkbox"/>	④ 3次元出来形管理等の施工管理 ※同上	<input type="checkbox"/>	出来形		1 モバイル端末を用いた出来形管理 2 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 3 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 4 TS等光波方式を用いた出来形管理 5 TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 6 RTK-GNSSを用いた出来形管理 7 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 8 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 9 施工履歴データを用いた出来形管理（土工） 10 施工履歴データを用いた出来形管理（河床等掘削） 11 施工履歴データを用いた出来形管理（地盤改良工） 12 地上写真測量を用いた出来形管理 13 その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 13を選択した場合の技術名称： [ ]
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	品質		1 TS・GNSSを用いた盛土の締め管理技術	
<input type="checkbox"/>	⑤ 3次元データの納品				

注1) ICT活用工事の詳細については、特記仕様書によるものとする。

注2) 採用する技術番号欄には、一つの作業内容に対して複数の技術番号を記載することができる。また、複数記載した技術のうち、1技術を活用することでも可能とする。

例：「1」、「1または3」

注3) ①、④において、「4.8.その他の3次元計測技術による・・・」を選択した場合は、その技術名称を記載すること。

④において、「13.その他の3次元計測技術による・・・」を選択した場合は、その技術名称を記載すること。

注4) ④について①で採用した技術と相違しても良い。

注5) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」において補正係数等の費用計上の対象となる出来形管理は、3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理を実施した場合であり、実施要領の別表3、4を原則とする。

(別添)

# ICT活用工事（舗装（新設・修繕））実施計画書

(工事名：○○○○○○○○工事)

受注者：○○○○○

当該工事において活用する技術について、「作業内容」欄の該当する工種のチェック欄に「■」と記入し、「採用技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。また、建設生産プロセスの各段階において、現場条件によりICTによる施工が適当でない箇所を除く施工範囲の全てで活用する場合は、左端のチェック欄に「■」と記入する。

(内容)

施工プロセスの段階		作業内容		採用する技術番号	技術番号・技術名
□ 全て活用する	<input type="checkbox"/> ① 3次元起工測量	/			1 地上型レーザースキャナーによる起工測量 2 トータルステーションTS等光波方式を用いた起工測量 3 TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 4 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 3-5 その他の3次元計測技術による起工測量 3-5 を選択した場合の技術名称： [ ]
	<input type="checkbox"/> ② 3次元設計データ作成				/
	<input type="checkbox"/> ③ ICT建設機械による施工 ※ 当該工事に含まれる右記の作業全てで活用する場合に「■」と記入	<input type="checkbox"/> 路盤工			1 3次元マシンコントロール（モーターグレーダ）技術MC建設機械 2 3次元マシンコントロール（ブルドーザー）技術 3-2 3次元位置を用いた施工管理システムを搭載した建設機械
		<input type="checkbox"/> 切削オーバーレイ工			
	<input type="checkbox"/> ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ※ 同上	<input type="checkbox"/> 出来形			1 地上型レーザースキャナーによる起工測量を用いた出来形管理 2 トータルステーションTS等光波方式を用いた起工測量出来形管理 3 TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 4 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 5 施工履歴データを用いた出来形管理 6 地上写真測量を用いた出来形管理 3-7 その他の3次元計測技術による起工測量を用いた出来形管理 3-7 を選択した場合の技術名称： [ ]
<input type="checkbox"/> ⑤ 3次元データの納品	/				

ICTを活用する施工プロセスまたは作業内容に「■をつける」

- 注1) ICT活用工事の詳細については、特記仕様書によるものとする。  
注2) 採用する技術番号欄には、一つの作業内容に対して複数の技術番号を記載することができる。  
また、複数記載した技術のうち、1技術を活用することも可能とする。  
例：「1」、「1または3」  
注3) ①、④において、「4.5. その他の3次元計測技術による・・・」を選択した場合は、その技術名称を記載すること。  
④において、「7. その他の3次元計測技術による・・・」を選択した場合は、その技術名称を記載すること。  
注4) ④について①で採用した技術と相違しても良い。  
注5) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」において補正係数等の費用計上の対象となる出来形管理は、3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理を実施した場合であり、実施要領の別表3、4を原則とする。

(別添)

# ICT活用工事（河川浚渫）実施計画書

(工事名：○○○○○○○○工事)

受注者：○○○○○○

当該工事において活用する技術について、「作業内容」欄の該当する工種のチェック欄に「■」と記入し、「採用技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。また、建設生産プロセスの各段階において、現場条件によりICTによる施工が適当でない箇所を除く施工範囲の全てで活用する場合は、左端のチェック欄に「■」と記入する。

(内容)

施工プロセスの段階		作業内容		採用する技術番号	技術番号・技術名	
□ 全て活用する	<input type="checkbox"/> ① 3次元起工測量	/			1 音響測深機器を用いた起工測量 2 その他の3次元計測技術による起工測量 2を選択した場合の技術名称： [ ]	
	<input type="checkbox"/> ② 3次元設計データ作成				/	
	<input type="checkbox"/> ③ ICT建設機械による施工 ※当該工事に含まれる右記の作業全てで活用する場合に「■」と記入	<input type="checkbox"/> 浚渫工 (バックホウ 浚渫船)	1 3次元マシコンコントロールMC建設機械 2 3次元マシンガイダンス技術MG建設機械			
	<input type="checkbox"/> ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ※同上	<input type="checkbox"/> 出来形	<del>1 音響測深機器を用いた出来形管理</del> <del>2-1 施工履歴データを用いた出来形管理</del> 2 音響測深機器を用いた出来形管理 3 その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 3を選択した場合の技術名称： [ ]			
	<input type="checkbox"/> ⑤ 3次元データの納品	/				

~~ICTを活用する施工プロセスまたは作業内容に「■をつける」~~

- 注1) ICT活用工事の詳細については、特記仕様書によるものとする。
- 注2) 採用する技術番号欄には、一つの作業内容に対して複数の技術番号を記載することができる。また、複数記載した技術のうち、1技術を活用することでも可能とする。  
例：「1」、「1または3」
- 注3) ①-④において、「4.2. その他の3次元計測技術による・・・」を選択した場合は、その技術名称を記載すること。  
④において、「3. その他の3次元計測技術による・・・」を選択した場合は、その技術名称を記載すること。
- 注4) ④について①で採用した技術と相違しても良い。
- 注5) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」において補正係数等の費用計上の対象となる出来形管理は、3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理を実施した場合であり、実施要領の別表3、4を原則とする。

(別添)

# ICT活用工事（法面工）実施計画書

(工事名：○○○○○○○○工事)

受注者：○○○○○○

当該工事において活用する技術について、「作業内容」欄の該当する工種のチェック欄に「■」と記入し、「採用技術番号」欄に該当建設生産プロセスの作業内容ごとに採用する技術番号を記載する。また、建設生産プロセスの各段階において、現場条件によりICTによる施工が適当でない箇所を除く施工範囲の全てで活用する場合は、左端のチェック欄に「■」と記入する。

(内容)

施工プロセスの段階		作業内容	採用する技術番号	技術番号・技術名
□ 全て活用する	<input type="checkbox"/> ① 3次元起工測量			1 空中写真測量（無人航空機）を用いた起工測量 2 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量 3 TS等光波方式を用いた起工測量 4 TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量 5 RTK-GNSSを用いた起工測量 6 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 7 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量 8 その他の3次元計測技術を用いた起工測量 8を選択した場合の技術名称： [ ]
	<input type="checkbox"/> ② 3次元設計データ作成			※3-D次元出来形管理に用いる3次元設計データの作成
	<input type="checkbox"/> ③ ICT建設機械による施工			
	<input type="checkbox"/> ④ 3次元出来形管理等の施工管理 ※同上	<input type="checkbox"/> 出来形		1 空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理 2 地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理 3 TS等光波方式を用いた出来形管理 4 TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理 5 RTK-GNSSを用いた出来形管理 6 無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 7 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理 8 その他の3次元計測技術を用いた出来形管理 8を選択した場合の技術名称： [ ]
	<input type="checkbox"/> ⑤ 3次元データの納品			

ICTを活用する施工プロセスまたは作業内容に「■をつける」

- 注1) ICT活用工事の詳細については、特記仕様書によるものとする。
- 注2) 採用する技術番号欄には、一つの作業内容に対して複数の技術番号を記載することができる。また、複数記載した技術のうち、1技術を活用することも可能とする。例：「1」、「1または3」
- 注3) ①、④において、「8. その他の3次元計測技術による・・・」を選択した場合は、その技術名称を記載すること。
- 注4) ④について①で採用した技術と相違しても良い。
- 注5) 「3次元出来形管理・3次元データ納品の費用、外注経費等の費用」において補正係数等の費用計上の対象となる出来形管理は、3次元座標値を面的に取得する機器を用いた出来形管理を実施した場合であり、実施要領の別表3、4を原則とする。